



関西大学
社会安全学部 教授
土田 昭司 様

NEXCO西日本グループレポート2022を
読んでみると豪雨災害への対応や地域と連携
した新しい企画、環境対策など、グループ理
念に沿った活動がつぶさに分かり易くまとめ
られている。

1950年代の後半から1960年代の高度経
済成長期において日本では高速道路をはじめ
としてインフラストラクチャが急速にかつ大
規模に整備された。これを賢くメンテナンス
してゆく方策と共に、災害対応や脱炭素社会
などに適切に対応する方策が求められている。
このレポートではNEXCO西日本グルー
プにおいて、高速道路の将来的に安定した利
用を保証するために新規建設や車線拡幅そし
てリニューアルプロジェクトの推進がなされ
ていること、さらに、将来に向けた進化とし
て脱炭素社会・循環型社会・自然と共生する
社会をテーマとした取り組みがなされている
ことが詳しくまとめられてあった。

一昨年から2年半以上にわたるコロナ禍は
社会に深刻な影響を及ぼし続けている。人々

の努力とワクチン接種などの対応が進んだこ
となどから、今年のゴールデンウィークは政
府・自治体による行動制限が出されず、景勝
地への外出、帰省、旅行などが増えてきつつ
あるものの、人々はコロナ禍に対応した生活
を続けざるを得ない状況である。この状況に
おいては、いわゆるエッセンシャルワーカー
の方々が社会の維持に大きな力となっている。
医療関係者とならんで物流を担う方々も
エッセンシャルワーカーである。高速道路は
物流の要のひとつであり、その意味で高速道
路を支える人は社会に必要不可欠なエッセン
シャルワーカーである。コロナ禍を経験して
人々の生活様式や意識に変化が生じ始めて
いるようである。コロナ禍が終息した後にも
充実した物流サービスにもとづく現在の
生活様式を望む人々が一定数いるであろう。
NEXCO西日本グループが行う「地域共創」
活動にも物流サービスの視点をより考慮して
充実させていただければと思う。

第三者意見をうけて



代表取締役
副社長執行役員

芝村 善治

本レポートに対する第三者意見は、前年度
に引き続き、関西大学社会安全学部教授の
土田昭司様からいただきました。貴重なご意
見をいただき感謝申し上げます。

ご意見を頂戴した物流サービスの観点で
は、社会インフラを担う責任として高速道路
の安全・安心を提供し続けることに加え、物
流事業者の支援として、大型車の駐車マス拡
充やダブル連結トラックに対応した駐車マス
の整備、シャワーステーションの利便性向上
などに継続して取り組んでいます。今後は、
「地域共創」活動においても、物流サービ
スも含めた地域課題を視野に地域の企業・自治
体のニーズ把握に努めるなど、アフターコ
ロナを見据えて変化するニーズを取り入れなが
ら、高速道路の進化に取り組み、地域の発展
と豊かな未来の実現に貢献する企業グループ
を目指してまいります。

また、本年度のレポート制作にあたっては、
高速道路の老朽化や災害の激甚化・頻発化、
コロナ禍による地域産業の変化、環境対策の
重要性の高まりなど、時代とともに変化し続
ける経営環境において、今、当社グループが
使命として大切にしていることをステークホ
ルダーの皆さまにお伝えすべく、構成を新た
にいたしました。グループ理念やCSR活動
方針に立ち返り、「安全・安心を最優先にし
た着実な事業推進」と「事業活動を通じた社
会の持続的な発展への貢献」を制作の視点と
して、事業や地域連携、環境に関する情報を
拡充しております。引き続き、ステークホル
ダーの皆さまに適時適切な情報をお届けし、
コミュニケーションツールとしての本レポー
トの役割を高めるために、内容の充実にも
努めてまいります。